

6 【分析4】平成26年度「基礎・基本」定着状況調査の結果と平成27年度全国学力・学習状況調査の結果との関係～学習内容の定着状況に改善が見られる学校の取組～

ここでは、平成26年度「基礎・基本」定着状況調査と平成27年度全国学力・学習状況調査の対象児童生徒が同一であることから、両調査の関連を見る。

分析の手順は以下のとおり。

- ① 平成26年度「基礎・基本」定着状況調査において、教科全体の平均通過率が県平均未満であった学校を抽出。
- ② ①で抽出された学校を、平成27年度全国学力・学習状況調査の平均正答率が県平均以上になった学校群と、県平均未満の学校群に分ける。
- ③ 平成27年度「基礎・基本」定着状況調査及び平成27年度全国学力・学習状況調査の学校質問紙調査の回答状況において、それぞれの学校群が「よく当てはまる（よく行った、よくしている 等）」と回答した割合を比較。

その際、学校質問紙調査の質問事項に対して、「よく当てはまる（よく行った、よくしている 等）」と回答した割合の差が、小・中学校の全ての教科において、5ポイント以上ある質問事項を取り上げる。

※ 平成27年度全国学力・学習状況調査の正答率は、(A問題とB問題の正答数の合計) ÷ (A問題とB問題の設問数の合計) で計算している。

〈小学校〉

教科	H26「基礎・基本」定着状況調査		H27 全国学力・学習状況調査	
		学校数 (校)		学校数 (校)
国語	県平均未満	213	県平均以上	59
			県平均未満	148
算数	県平均未満	196	県平均以上	82
			県平均未満	109
理科	県平均未満	216	県平均以上	47
			県平均未満	164

※H26とH27の学校数は一致していないのは統合等があったため。

〈中学校〉

教科	H26「基礎・基本」定着状況調査		H27 全国学力・学習状況調査	
		学校数 (校)		学校数 (校)
国語	県平均未満	102	県平均以上	32
			県平均未満	69
数学	県平均未満	110	県平均以上	13
			県平均未満	96
理科	県平均未満	110	県平均以上	19
			県平均未満	90

※H26とH27の学校数は一致していないのは統合等があったため。

《分析の概要》

- 平成26年度「基礎・基本」定着状況調査では県平均未満であったが、平成27年度全国学力・学習状況調査では県平均以上になった学校と、県平均未満の学校を、平成27年度「基礎・基本」定着状況調査及び平成27年度全国学力・学習状況調査の学校質問紙の回答状況で比較すると、「よく当てはまる（よく行った、よくしている 等）」と回答した割合の差が5ポイント以上ある質問事項の数は、小学校で8項目（「基礎・基本」定着状況調査2項目、全国学力・学習状況調査6項目）、中学校で11項目（「基礎・基本」定着状況調査3項目、全国学力・学習状況調査8項目）である。

「基礎・基本」定着状況調査 学校質問紙調査〈教育活動全般に関する質問事項〉

【小学校】

※数値はポイントの差を表す（県平均以上になった学校群—平均未満の学校群）

質問事項	差		
	国語	算数	理科
(1) ⑥児童が、情報を、比較したり、分類したり、関係付けたりして分析するような指導を工夫した。	12.0	17.8	7.2
(2) ③「広島県教育資料」を活用した研修を行った。	17.8	14.8	10.8

【中学校】

質問事項	差		
	国語	数学	理科
(1) ⑪生徒が、振り返りをするときには、「もっと考えてみたいこと」、「もっと調べてみたいこと」、「もっと工夫してみたいこと」などを考えるような指導を工夫した。	13.8	16.3	24.3
(2) ①ことばの教育について、計画的に研修を行った。	34.9	26.9	13.2
(2) ②広島版「学びの変革」アクション・プランについての研修を行った。	22.7	23.6	14.0

全国学力・学習状況調査 学校質問紙調査〈学校の指導方法等に関する質問事項〉

【小学校】

※数値はポイントの差を表す（県平均以上になった学校群—平均未満の学校群）

質問事項	差		
	国語	算数	理科
(30) 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか	9.7	15.1	7.9
(36) 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしましたか	11.9	13.1	6.0
(40) 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか	17.3	12.4	9.0
(50) 平成 26 年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、学校全体で成果や課題を共有しましたか	8.3	23.6	16.4
(51) 平成 26 年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか	7.6	20.6	11.3
(76) 調査対象学年の児童に対する理科の指導として、前年度までに、観察や実験におけるカードやノートへの記録・記述の方法に関する指導を行いましたか	10.2	13.6	9.6

【中学校】

質問事項	差		
	国語	数学	理科
(29) 調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れましたか	11.4	12.5	12.2
(33) 調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、発言や活動の時間を確保して授業を進めましたか	22.9	10.7	6.5
(35) 調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学級やグループで話し合う活動を授業などで行いましたか	7.5	23.0	24.3
(49) 調査対象学年の生徒に対して、前年度に、理科の授業において、コンピュータ等の情報通信技術（パソコン（タブレット端末を含む）、電子黒板、実物投影機、プロジェクター、インターネットなどを指す）を活用した授業を行いましたか	28.0	36.1	31.5
(77) 調査対象学年の生徒に対する理科の授業において、前年度に理科室で生徒が観察や実験をする授業を1クラス当たりどの程度行いましたか	7.7	15.7	8.2
(85) 学校支援地域本部などの学校支援ボランティアの仕組みにより、保護者や地域の人が学校における教育活動や様々な活動に参加してくれますか	8.1	19.1	14.6
(86) 保護者や地域の人々の学校支援ボランティア活動は、学校の教育水準の向上に効果がありましたか	6.3	12.2	8.5
(107) 言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか	16.0	18.0	8.0